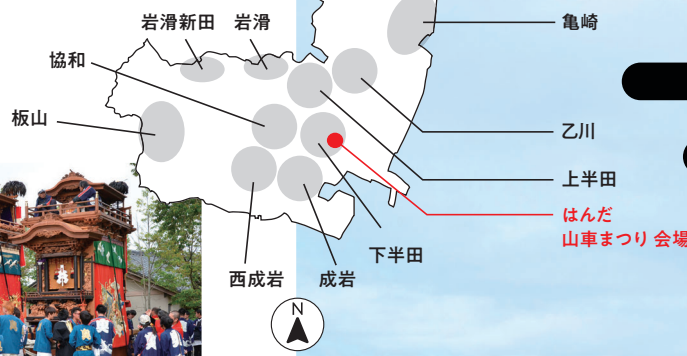


春の祭礼

毎年3月下旬から5月上旬にかけて開催される伝統的な祭礼行事。週末ごとに市内10地区で総数31輛の山車がそれぞれの氏神へ曳き揃えられます。



祭人の情熱と
31輛の山車が織りなす
勇壮華麗な時代絵巻。



乙川 3月下旬
知多路に春を告げる乙川祭。山車4輛による乙川八幡社での坂上げで若衆が一番巻を奪い合う様は勇壮そのものです。



岩滑 4月中旬
新美南吉の童話「狐」にも描かれる岩滑の祭礼。提灯飾りの山車2輛と矢勝川河畔での花火の競演は見どころです。



岩滑新田 4月中旬
豊かな自然を背景に多くの新美南吉童話の舞台となった岩滑新田。山車2輛がのどかな田園を進む風景は情緒的です。



上半田(ちんども祭) 4月中旬
山車2輛とちんども舟2艘が登場するちんども祭。宵祭りでの提灯飾りの山車と舟、子供三番叟の舞、花火は幻想的です。



協和 4月中旬
珍しい男児による神子舞が行われます。2組の若衆が総出で行く白山神社急坂での山車2輛の上げ下げは、最大の見どころです。



成岩 4月中旬
山車4輛による成岩神社への打ち込みの他、大獅子小獅子の舞(県指定無形民俗文化財)、巫女舞など見どころがたくさんあります。



西成岩 4月中旬
氏神の成石神社と9カ所の末社を山車2輛が巡ります。市内随一といわれる奉納投げ餅はまさに圧巻、大勢の人で賑わいます。



板山 4月中旬
板山神社に山車3輛、八幡神社に山車1輛が曳き出されます。板山獅子舞(県指定無形民俗文化財)は八幡神社にて奉納されます。



下半田 4月下旬
古くから海運・醸造・商業の町として栄えた下半田。豊かな財力により造られた山車4輛が半田運河を中心に曳き廻されます。



山車

5年に一度の祭典

山車31輛が勢揃いはんだ山車まつり

半田市内10地区31輛の山車が勢揃いする5年に一度の祭典で、50万人を超える見物客でにぎわいます。魅力は何といてもスケールの雄大さで、31輛の山車の曳き廻しは勇壮そのものです。宵祭りでは提灯飾りした山車や、ちんども舟(巻藁舟)が幻想的な雰囲気醸し出します。ほかにもからくり人形、獅子舞、幼児による三番叟の舞など、半田の山車文化の全てが観覧できます。

次回開催予定 半田運河周辺
令和5年 10月28日・29日
次々回/令和9年秋開催予定



半田運河に浮かぶ、ちんども舟

Check!

バーチャルリアリティ動画で山車まつりを360度体感!



からくり人形



亀崎西組花王車 桜花唐子遊び ~綾渡り~

桜の枝に吊るされた綾をつたって二体の唐子が渡っていく、難れからくりです。



乙川浅井山宮本車 唐子遊び ~乱杭渡り・変身~

小唐子が五段の乱杭を渡る難れ技をします。大唐子は、おめでたい言葉が書かれた文字扁額に素早く変身。



下半田南組護王車 二福神 ~大黒天・恵比寿天と宝船~

恵比寿が大きな鯛を釣り上げて大喜び。大黒が小楯で宝袋を叩くと、袋が開き中から宝船が出て、紙吹雪と宝銭が飛び出します。



西成岩西組敬神車 鶴(ぬえ) ~源頼政弓張り張月の対峙~

源頼政が京都御所に出没する「ものけ」[鶴]を矢で射落とす。郎党が短剣でとどめを刺す。平家物語の鶴の章を演じます。

半田市内の山車のうち20輛に31歳のからくり人形が載り、春の祭礼では各地区の氏神に人形技芸を奉納します。山車前方の前棚で演じられる前棚人形は、直接操る三人遣いも多く、三番叟(さんばそう)がその代表。山車の上部に載る精巧かつ大がかりな上山人形は、逆立ち、乱杭渡りなどの難れ技や、能の演目などが演じられます。それぞれ、お囃子や謡、三味線、琵琶の音色に乗せて披露されます。



亀崎中切組力神車 「浦島(面かぶり)」

半田市立博物館

E-7



知多半島の自然や歴史から半田の祭礼・醸造文化について学べます。中でも山車の実物展示(4ヶ月ごとに入れ替え)は大迫力!からくり人形の操作も体験できます。

- 0569-23-7173
- 半田市桐ヶ丘4-209-1
- 10:00~18:00
- 毎週月曜(月曜祝日の場合は開館、翌日休館)、年末年始休
- 無料

海から祭神が上陸したという伝説にちなみ、潮干の海浜に5輛の山車を一気に曳き下ろす、とても珍しい祭りです。湿った砂にゴマ(車輪)が沈み込み立ち往生してしまった山車が、曳き手の奮闘により再び動き出すと、観客から大きな拍手と喝采が沸き起こります。祭りの起源は三百年前までさかのぼるといわれています。平成18年には国の重要無形民俗文化財に指定、平成28年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。

亀崎潮干祭

5月3日・4日

祭

り